

夢を追いつける大人たち、
これまでの道のり、
将来の目標、
そして子どもたちへの
メッセージを届けます。

本当の
ゴールは
まだ遠く
追いつて

夢を 追いつて 世界最大級の植物工場で 農業の問題解決に挑戦し、 新しい文化を生み出す

——トレードグループ 株式会社スプレッド 代表取締役社長 稲田信二氏

植物工場でレタスを
1日2万株以上生産する

2007年、京都府亀岡市に1日に2万1000株のレタスを生産する大規模な植物工場、「亀岡プラント」を建設しました。単一のレタス工場としては世界最大級。現在は、新しい産業の発信などを目的とした関西文化学術研究都市（大阪府、京都府、奈良県にまたがる広域都市）で、育苗から収穫までを自動化した植物工場の建設計画を進めています。完成すれば1日に約3万株のレタスを生産することができ、この活動の根底には、世界中の人たちが、いつでもどこでも新鮮な野菜を安心して食べられる社会を実現したいという思いがあります。

しかし、会社を設立した当初から植物工場を稼働させていたわけではなく、もともとは野菜の転送事業を行っていました。転送事業とは聞き慣れない言葉かもしれませんが、簡単に言うと日本全国にある卸売市場の間で、野菜の需給バランスを調整する事業です。

野菜は天候などの影響で市場に入荷される品目や量が日によって大きく変わる場合があります。野菜がたくさんある市場では、良質な野菜に安い値段がついてしまう場合があり、反対に野菜が少ない市場では、品質が多少悪くても高値がつけられることが多い。「より良い野菜を適正な価格で取引できないだろうか」と考え、2001年に起業しました。

野菜流通に関連する事業を展開していく中で、全国の農家と会う機会が増え、日本の農業が抱える問題を実感するようになりました。その一つとして、農家の高齢化があげられます。日本で農業に携わる人の大半は65歳以上で、



●いなだ しんじ

- 1960年 兵庫県尼崎市生まれ
- 1989年 飲料メーカー、宝石を扱う商社などを経て青果流通会社に入社
- 2001年 株式会社トレードを設立
- 2006年 株式会社スプレッドを設立し、植物工場事業を開始する
- 2007年 京都府亀岡市に人工光を活用した植物工場を完成させる
- 2016年 画期的な製品やサービスを称える「エジソン賞」の農業・園芸分野で金賞を受賞する

ほとんどの農家には後継者がいません。それに関連して、耕作放棄地が増えていくという問題も深刻です。このままでは日本の農業が縮小し、健康な食事を支える基盤が崩れてしまう。これはまずいと危機感を覚え、現状を打開するアイデアを考えた結果、自然環境に左右されずに野菜を育てることができ植物工場の事業に挑んだのです。

新聞配達に宝石鑑定 どんな仕事も楽しめる！

今は植物工場の設立などに奮闘していますが、子どもの頃は、将来このような仕事をすると、まったく想像していませんでした。小学生の頃は外で遊ぶのが大好きで、日が暮れるまで野球やサッカーをしていました。

また、小学生の頃から働くことには少しさを見出していました。私には2歳上の兄がいるのですが、兄が中学生から新聞配達のアルバイトを始めました。それに触発され、私も新聞配達にチャレンジ。友だち数人も加わり、誰が一番早く配達できるか競争してました。勝負なので当然勝ちたい。そのためにはどうい道順で配達すれば最も効率的か、新聞を素早くポストに入れるにはどうすればいいかなど自分なりに策を練り、毎朝実践していました。雨の日や寒い日は面倒だなと思うときもありましたが、配達を終えた後はいつも達成感があり、ほかの人の役に立っていることも大きな喜びでした。誰

かの生活を支えるために一生懸命がんばる。そこにやり甲斐を感じるの、小学生の頃から変わっていません。

社会人になってからは飲料メーカーで働き、仕事仲間と誰が一番早く営業活動を終わらせて会社に帰って来られるか、誰が一番きれいに商品をディスプレイできるかなどを競っていました。

小学生の頃とほとんど変わらないですね(笑)。仕事にやり甲斐を感じていた一方で、「何か一つのことを突き詰めた」という気持ちも持っていました。昔から変わった形や性質を持つ物を調べるのが好きでしたが、ふとしたきっかけで鉱物学に興味を持つようになり、宝石鑑定士を目指すことに。多くの人を魅了する価値を持つ宝石は、鉱物の中でも特に興味をかき立てられる存在だったんです。努力の末、宝石鑑定士の資格をとり、宝石を扱う商社へ転職。それからは毎日、宝石の原石を調べ、原産地を特定したり、商品としての価値を分析する仕事に打ち込みました。外で営業を行っていた仕事から一転、石と向き合い細かい作業を黙々と続ける日々。しかし、一人で何かに集中するのが好きな性分なので苦ではありませんでした。

ただ、1980年代後半から始まったバブル経済が崩壊すると、それまで

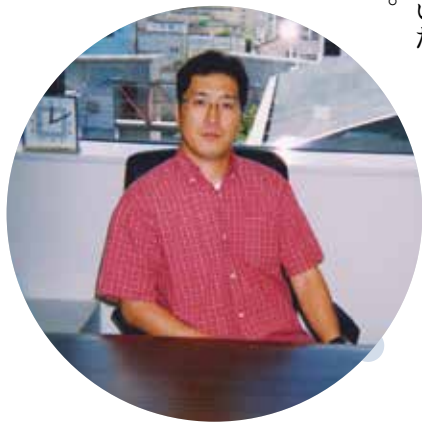
【過去の自分から質問！】

どうしてそんなに
がんばることが
できたの？



飛ぶように売れていた宝石がほとんど売れなくなっていました。経済状況や価値観が急激に変化する中で、私自身も「毎日の暮らしに欠かせないものを仕事で扱い、社会に貢献できないだろうか」と考え始めました。そんなとき目に留まったのが、青果流通会社の募集広告です。当時は野菜に関する知識は全くありませんでしたが、興味を覚え、働き始めることになりました。

仕事に打ち込む中で、「宝石の仕事と野菜の仕事は全然違う」「世の中にこんな世界があるのか」と驚くことがたくさんありました。最も驚いたのは取引のスピードの速さです。毎日、数十分で何百万個という量の野菜が売れていく。それが全国の家庭の食卓に並び、多くの人を喜ばせる。そのことに感激し、自分はいから野菜の世界に身を置くこと確信しました。そして経験を積んだ後に自分の会社を立



【今の自分が答える！】

どんなことも楽しみながら、
全力で取り組んできたから。
世の中にはおもしろいことや
未知の世界がたくさんある！



1 亀岡プラントの視察に来たシンガポール国務相と撮影。2 亀岡プラントで生産したレタス「ベジタス」。3 グループ会社では京野菜の生産・販売も行っている。

ち上げ、2006年から植物工場の設立にも取り組み、現在に至ります。これまでにさまざまな仕事を経験しましたが、常に不安よりもやり甲斐の方が大きかったです。それは、それぞれの仕事の中で果たす役割や重要性をしっかりと理解した上で、「もっとこうしたい！」という前向きな考えを持ち続けていたからでしょう。また周りの人たちのサポートも不可欠でした。特に起業してからは、仲間の存在が心の支えとなり、彼らがいいたからこそ植物工場も実現できました。

寛容さとこだわり その両方が大切

今後は日本だけではなく、海外にも植物工場をつくるのが目標です。世界には自然環境が厳しく、農業を行う

ことが難しい地域があります。そんな場所に植物工場をつくれれば、そこで暮らす人たちの食生活や健康を支えることができる。さらに雇用が生まれ、住民が増え、教育などにも良い影響をもたらすかもしれない。植物工場の運営を通じて、そこに暮らす人たちの生活をトータルにサポートしたい。言い換えれば、一つの文化をつくり上げることが私の夢です。もちろん乗り越えるべきハードルは高く、試行錯誤を繰り返さなくてはなりません。日本で植物工場をつくらうとしたときも周囲からは反対の声が多く、工場建設を実現するまでには時間を要しました。だからこそ目標を達成できたときは心の底からうれしかった。これからも困難な仕事にこそ挑み、夢の実現に向けて一歩ずつ前進していきたいと思っています。

小学生のみんなには、自分と他人との違いを受け入れる寛容さを身につけてほしいですね。周りの人とのつながりや協力なくして、夢を実現することは難しい。相手の気持ちになって物事を考える習慣をつけてください。

その一方で、こだわりを持つことも大切。身の回りにある物や出来事に関心を持ち、「なんでこうなるんだろ？」「ぼくなら今の状況をこう変える」などと考える習慣をつけてみましょう。どんなことから学ぶべきことはたくさんある。それに気づいたとき、夢に向かって一歩前進できることでしょう。